

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の 死亡（今年2例目）に伴う注意喚起について

令和7年7月2日、県内の医療機関から重症熱性血小板減少症候群（SFTS）による死亡例の報告がありました。今年2例目となります。

重症熱性血小板減少症候群は、主に病原体を持ったマダニに咬まれることでおこる感染症です。マダニが媒介する感染症にかからないためには、マダニに咬まれないことが重要です。

県民の皆さんに予防に対する注意喚起をお願いします。

1 発生状況

感染者	綾歌郡に住所を有する 70 歳代 男性
推定される感染経路	マダニに咬まれたと推定
発症日	令和7年6月23日
症状	発熱、全身倦怠感、消化器症状、白血球減少、血小板減少
経過	入院加療中に死亡

（特記事項）

本発表は感染症の発生又は防止を図るため、県民へ注意喚起等を行うものです。つきましては、患者及び家族等の個人情報については、プライバシーの保護の観点から、提供資料の範囲内での報道をお願いします。

2 重症熱性血小板減少症候群とは

重症熱性血小板減少症候群は、マダニにより媒介される SFTS ウイルスによる感染症です。6～14 日の潜伏期間を経て、発熱、消化器症状（食欲不振、吐き気、おう吐、下痢、腹痛）が多く、多くの症例で認められ、その他、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、呼吸不全症状、出血症状などを起こし、日本の重症熱性血小板減少症候群患者の致命率は約 30%と報告されています。

感染経路は、マダニを介したものが中心ですが、ペット等の動物から人への感染も報告されています。対症療法が主体となりますが、病状の進行が予期される場合には、抗ウイルス薬（ファビピラビル）を使用することも検討されます。

3 本県及び全国での発生状況

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
香川	3	2	1	7	5	2
全国	78	110	118	134	122	80

※香川県：令和7年7月2日までの報告件数の累計（本件含む）、

全 国：令和7年6月22日までの報告件数（速報値）

※重症熱性血小板減少症候群による死亡例は、累計で県内5例目です。

（1例目は平成29年5月に発生、2例目は平成29年11月に発生、
3例目は令和3年6月に発生、4例目は令和7年6月に発生。）



県民の皆さまへ

ウイルスを運ぶ「マダニ」は命にかかわる感染症を起こす危険があります

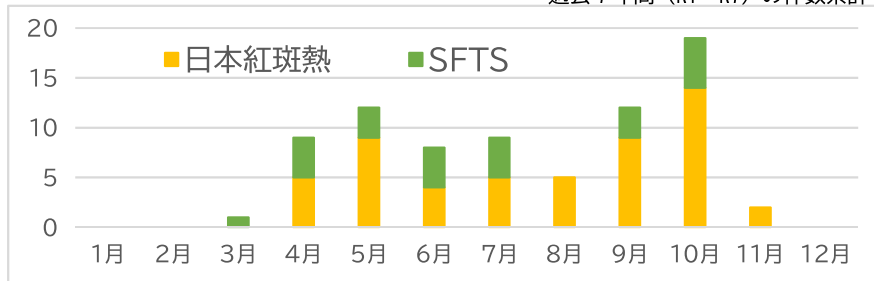
▶ ダニ媒介感染症は、毎年発生しています

香川県におけるダニ媒介感染症の年間発生件数（R7. 7. 2 現在）

	R 元年	R2 年	R3 年	R4 年	R5 年	R6 年	R7 年
SFTS	4	3	2	1	7	5	2
日本紅斑熱	6	7	8	8	7	12	5

▶ 3月から11月に、発生しています

過去7年間（R1～R7）の件数累計



▶ マダニに咬まれない複数の工夫をしよう

肌を露出
しない

防虫スプレー
を活用

作業着は
外で脱ぐ

作業後はマダニを
チェック

- ◆長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用、首筋にはタオルを巻くなど、肌の露出をなくしましょう。
- ◆防虫スプレーを噴霧しましょう。（防虫に有効な成分：ディート、カリジン）
- ◆地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたりしないようにしましょう。
- ◆屋外活動後は、シャワーや入浴で、マダニが付いていないかチェックしましょう。
- ◆作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◆やぶ等で、犬や猫などにマダニが付くことがあります。ダニ駆除薬がありますので獣医師にご相談ください。

マダニに
咬まれたら

マダニを無理に引きぬかず、医療機関（皮膚科）に処置をお願いしましょう
咬まれた後、数週間は発熱など体調の変化に注意し、気になる症状は医療機関に
相談をしましょう

重症熱性血小板減少症候群 （SFTS）

マダニに咬まれ、SFTSウイルスに感染することにより引き起こされる病気で、咬まれてから6日～2週間後に、発熱（38度以上）、食欲低下、吐き気、おう吐、腹痛、下痢などの症状がでます。

日本紅斑熱

マダニに咬まれ、日本紅斑熱リケッチアに感染することにより引き起こされる病気で、咬まれてから2日～8日後に身体がだるい、高熱（39～40度以上）、発疹などの症状がでます。